

1. トピックス

3. 「できること」を増やすための作業療法士の取り組み

植田 友貴（西九州大学リハビリテーション学部 作業療法学専攻）

座長 上出： 3演題目に移らせていただきます。こちらはお配りした抄録集とは演者の先生が変わっておられますので、ご承知おきください。西九州大学の植田先生に急きょご発表していただくことになりましたが、よろしくお願いいたします。

「している」活動を増やすための 作業療法士の取り組み

西九州大学リハビリテーション学部
作業療法士 植田友貴

植田：よろしくお願いいたします。急遽スライドを作製しましたので、お見苦しい点があると思いますが、ご了承願います。私は佐賀県にありますが、西九州大学にて作業療法学専攻の教員をしております植田と申します。よろしくお願いいたします。

自己紹介

- 植田友貴
- 西九州大学リハ学部
作業療法士
- 所属団体
 - 日本作業療法士協会 委員
 - ながさきコミケン 会長
 - JALSA佐賀支部 顧問



本日ご紹介する内容ですが、日本作業療法士協会の制度対策部福祉用具対策部会にて行なっている、福祉用具の相談や貸し出し事業についてのご紹介と、私が主催しておりますながさきコミュニケーションエイド研究会の紹介をさせていただきます。

本日、ご紹介する内容

- 日本作業療法士協会の活動紹介
 - 福祉用具の相談、貸し出し事業
- ながさきコミュニケーションエイド研究会の紹介
 - 多職種協業ボランティア団体

まず、臨床現場にありがちな話ですが、リハ室では車椅子に 40 分以上座って食事動作訓練ができています。これは「できる活動」「できる ADL」と言います。一方で同じ対象者さんでも、病棟ではベッド上で食事動作全介助の場合があります。これを「している活動」「している ADL」と我々は呼んでいます。私たち作業療法士は患者さんに対して、「できる活動」をまず増やしていくこと、そしてそれを日常、病棟や在宅でやっている「している活動」へ高めていくことを目標にしております。

医療現場でありがちな話…

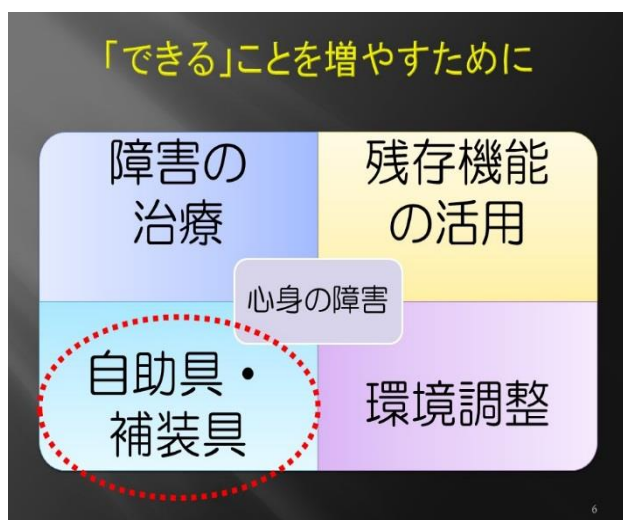
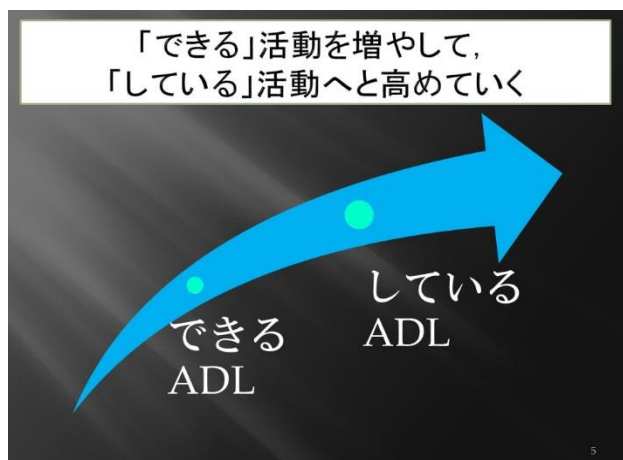
- リハ室
 - 車椅子に40分以上座って、
 - 食事動作訓練

「できる」活動
- 生活場所（病室、自宅）
 - ベッド上で、
 - 食事動作全介助…

「している」活動

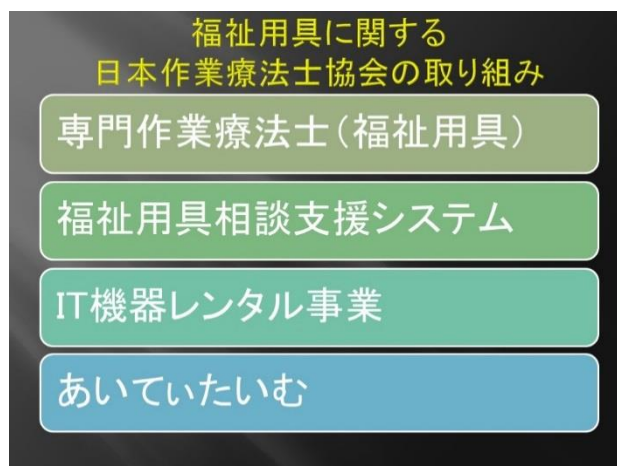
そのための方法として、福祉用具の活用が挙げられます。私たち作業療法士は障害の治療であったり、残存機能の活用であったり、自助具や補装具の利用であったり、そして障害があっても生活できる環境調整をしております。まずは、日本作

業療法士協会の活動として、自助具、補装具に関連した内容を一部抽出してお伝えしたいと思います。



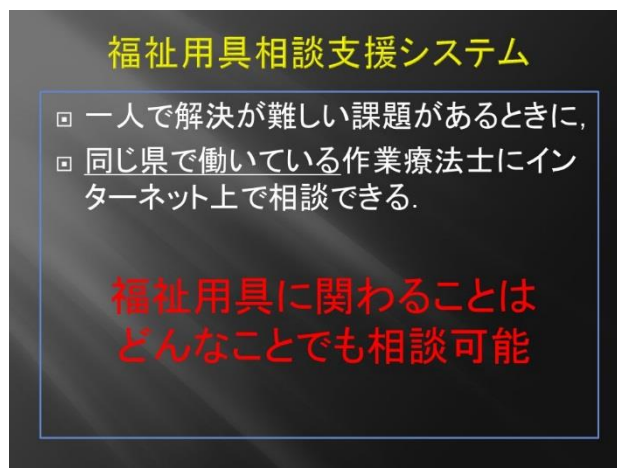
1) 日本作業療法士協会の取り組みの概要

日本作業療法士協会では福祉用具に関する取り組みとして主に4つ事業がございます。まず1つ目は専門作業療法士というもので、こちらは日本作業療法士協会が作り出した専門作業療法士制度の中の一つの分野です。他に、福祉用具相談支援システム、IT機器レンタル事業、「あいていたいむ」の3つがございます。専門作業療法士は時間の関係上省かせていただきますので、残りの3つについて簡単ですがご紹介させていただきます。



2) 福祉用具相談支援システムの紹介

まず相談支援に関する取り組みである、福祉用具相談支援システムについてご説明します。こちらは、例えば現場の若手作業療法士一人では解決が難しい課題があったとします。対象者の方の症状であったり、いろいろな道具の適応であったり、難しい課題がある時に、同じ県で働いている作業療法士にインターネット上のセキュリティが確保された掲示板を用いて相談できるという事業です。福祉用具に関わることであれば、どのようなことでも相談可能です。



特徴としては、顔の見える相手に相談できることです。もちろん電話での相談も良いのですが、セキュリティのしっかりしたインターネットシステムを使うことで、空いた時間でも相談することができるため、相談がしやすくなるのではないかと考えております。アドバイザーは経験豊富な作業療法士であるため、患者さんのQOL向上に寄

与できる可能性も高まります。

さらに、相談者の知識や技術の向上が図れるように、「こういう自助具を使ってはどうですか」などと、単に自助具を提案するだけでなく、「この方のこういった症状についてもう少し細かく評価してください。こういうことについて情報提供してください」などと、評価に繋がるアドバイスや、追加情報を求めることを繰り返しながら、少しずつ自助具の選定や、対応方向性を導いてく関わりを行なっています。つまり、ただ単に情報を与えるだけではなく、相談者に教育的な意味も含めたアドバイスをしていくところが一つの特徴でございます。

そして一番重要なことは事例の蓄積です。こちらは相談が終わった後、個人情報をもスキミングした状態でサマリーを作成することになっております。このサマリーシステムを使うことで、こうした患者さんに対してはこのような支援が有効であるとい事例を蓄積し、今後の情報として活用したいと考えております。

福祉用具相談支援システムの特徴

顔の見える相手に相談出来る

- ・ 県内の同職種であるため相談しやすい。

知識・技術の向上が図れる

- ・ 評価方法や、治療法など多岐に渡るアドバイスを実施。

事例の蓄積

- ・ 個人情報をスキミングしてサマリーを作成。

このスライドはパンフレットから抜粋した福祉用具相談支援システムの概略図です。

次に相談内容の一例です。ALS の患者さんをモデルにしていますが、個人情報保護の観点より、一部フィクションを含んだ模擬事例とご理解ください。この方の概要は、ほぼ寝たきりで後頭部に褥瘡が発生しそうなため、床擦れ防止用の枕についての相談でした。対応として、まず商品名を挙げて既製品の紹介をしました。また、金銭的余裕が無いとのことでしたので、おむつのポリマーなどを使った枕の作成方法を、実際に写真を用いながら説明しました。写真は直接掲示板に添付できますので、写真を見ながらやりとりできることもこのシステムの特徴です。そのほか、家族の方への指導など、シーティングについてアドバイスさせていただいた事例です。

相談内容の例

- ALS
- 後頭部に褥瘡ができそう。
エアマット、ウレタンの枕を使用し、人工呼吸器装着、自動運動はわずかな視線の移動のみ。
療法士や看護師がほぼ毎日介入しているが、体位交換に対してご家族の対応が得られにくい状況。
床ずれ防止用の枕はあるか？

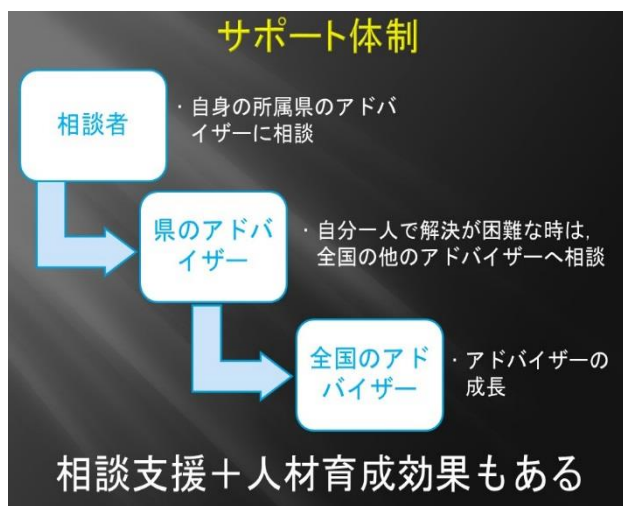
回答例

- 既製品の具体的な商品名を挙げて紹介
- エア枕や水枕での高さ調整の工夫、
- オムツのポリマーを使用して枕を作成する等を提案。
- 家族指導やシーティングの重要性についても再検討を伝えた。

福祉用具相談支援システム

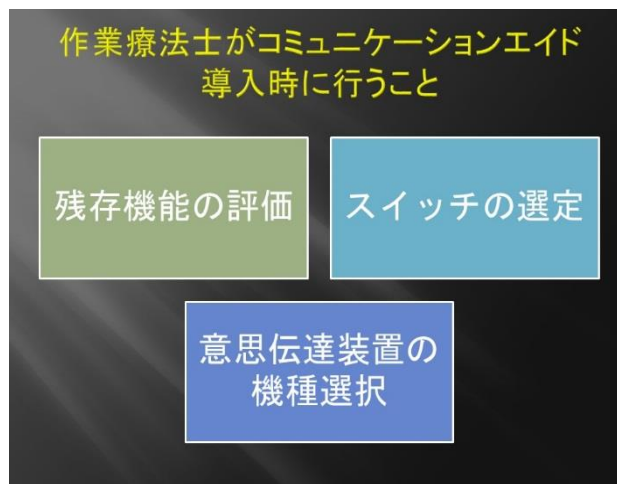


サポート体制ですが、まず相談者の方は同じ県のアドバイザーに相談します。先述の通り各県にアドバイザーを配置しておりますが、アドバイザーにも得手不得手がございます。担当したアドバイザーだけで対応が困難だと感じた場合は、アドバイザー自身が全国のアドバイザーに、相談を行なうことができます。こうすることにより、相談を担当したアドバイザーのスキルアップにも繋がると考えております。つまり、相談を通して、相談者ならびにアドバイザーの人材育成効果も期待できます。もう一つの効果としては、全国のアドバイザーも他県のアドバイザーからいろいろな相談が来ることで、全国のアドバイザー自身の経験値も増やしていくことにもつながると思っております。ここまでの福祉用具全般に関する取り組みのご紹介です。



3) IT 機器レンタル事業の紹介

ここからは難病でよく使うコミュニケーションエイドに限定した取り組みのご紹介をさせていただきます。まず作業療法士がコミュニケーションエイド導入時に行うことですが、残存機能を評価し、スイッチの選定を行います。同時に意思伝達装置の機種選択を行います。



しかし機器選定については実機にて試してみなければ適合できるかどうか分からない場合が多くあります。また残存機能から使えるだろうと判断しても、実際には患者さんの症状に適合していない場合もありますので、必ず実機での練習が望ましいと考えます。

その実機に関する問題点ですが、多くの施設では予算の関係上購入が難しいという相談をいただきます。神経・筋疾患治療の機関施設であれば、意思伝達装置の利用頻度も高いため、デモ機の購入について施設側の理解も得られやすいようです。一方で地域の病院ですと使用頻度もバラバラであるため、なかなか購入予算を捻出できないようです。

そのため多くの施設では、練習用としてスイッチや意思伝達装置をレンタルして練習するしか無い状況です。機器の貸し出しについては、ボランティア団体やNPO、行政からからの貸し出しがあります。業者さんからの無償レンタルや、月払いの有償レンタルもあります。しかし、その多くは貸出期間が1～2週間程度が多く、長く借りることが困難です。またNPOなどからの無料貸し出しの場合でも送料の負担は必要となるケースが多い状況です。このように、デモ機器のレンタルには、費用や、時間的制約が多いと言えます。そのためになかなかデモ機がタイムリーに準備できず、必要な時期に支援ができなかったという相談もよくいただいております。

デモ機準備の問題点

- 多くの施設ではデモ機を保有は困難
 - 貸し出しに頼っていることが多い
- 借りられるのは短期間
 - 1～2週間程度が多い
 - 送料の負担が必要

そこで日本作業療法士協会として、IT 機器レンタル事業を立ち上げました。これは私どもが IT 機器の研修を行いまして、その研修に参加した方に対してデモ機の貸し出しを行うという事業です。特徴はレンタル費及び送料を日本作業療法士協会が負担するため、利用者は無料で借りることができる点です、期間は 1 カ月となっておりますが、一度返却すれば何度でも借りることが可能です。練習する期間をしっかりと確保していただくという意味で、期間を長めに設定しております。貸し出し機器はいろいろありまして、今後拡充していく予定です。

IT機器レンタル事業

- 研修の受講者へデモ機を貸出
 - 機器を使える作業療法士向け
- **無料**で利用可能(送料も協会負担)
- 期間は1ヶ月、何度でも可能

このレンタル事業の効果ですが、まず必要な時にデモ機を提供できるため、タイムリーな支援が可能であると考えています。そして、デモ機を貸し出す方には、必ず研修を受けていただいております。これにより、知識不足で導入に失敗することを防げると考えています。研修から現場での活

用を通して、コミュニケーションエイドの支援に強い作業療法士をどんどん増やしていくということも本事業の目的の一つです。このデモ機の貸し出し事業と研修については、参加費も無料で受講の敷居を低くしております。さらに、講師陣もボランティアで参加していることも特徴です。講師陣も IT 機器支援が出来る作業療法士の仲間を増やすという目標に向かって、一丸となって取り組んでいます。

IT機器レンタル事業の効果

必要な時に、デモ機を提供できる。

タイムリーな支援が可能

研修も実施

コミュニケーションエイドに強い
作業療法士を育成

このスライドは研修風景です。座学、機器を使っているディスカッションや、実際の操作体験を行っている風景です。実機に触る時間は長めに設定しています。今年度は沖縄と長崎で行いました。今年の研修場所の選定理由ですが、どちらの県も離島を抱えているため、両県の作業療法士会から強い要望を頂き実施する運びとなりました。来年度は東北をメインに 2 カ所実施予定です。

研修風景(沖縄)



4)「あいていたいむ」の紹介

次に「あいていたいむ」の紹介です。これは先ほどの福祉用具相談支援システムと同じインターネット上での相談事業ですが、その中でもコミュニケーションエイドに特化した相談事業です。福祉用具相談支援システムのアドバイザーはベテラン作業療法士が殆どです。しかし、コミュニケーションエイドに関しては、神経・筋難病の方をどれだけ経験したかということでもかなり経験値が変わってまいります。そのため、コミュニケーションエイドに強い OT だけをアドバイザーとして集めて、別に相談システムを展開しています。利用はもちろん無料です。しかし、現在はセキュリティや個人情報保護を目的で、利用は日本作業療法士協会の会員に限定しております。こちらも相談内容は ID、パスワード、でセキュリティを確保しております。

あいていたいむ

- コミュニケーションエイドに特化した相談事業
- 全国からの相談に対してアドバイザーが支援
- **無料**
 - (現在は作業療法士限定)

**全国の作業療法士を通して、
コミュニケーションエイドの導入を支援**

「あいていたいむ」目的は、地域を問わずコミュニケーションエイドの導入支援を均一に行えるようにすることです。全国にはコミュニケーションエイドの導入が必要な方は数多くいらっしゃると思います。しかし、コミュニケーションエイドに関する情報が少なく、導入には至らない方も少なからず存在します。そういう方を一人でも減らすために、全国の作業療法士を通して、難病の方にコミュニケーションエイドの導入支援ができる体制を作ることが目標です。

日本作業療法士協会としては、今後も相談・研

修・貸し出し事業を通して、日本全国の作業療法士をバックアップしていきます。そして、難病の患者さんが困ったことがあれば、作業療法士に相談していただければ解決できるという状況を整えていきたいと考えています。

作業療法士協会の取り組み まとめ

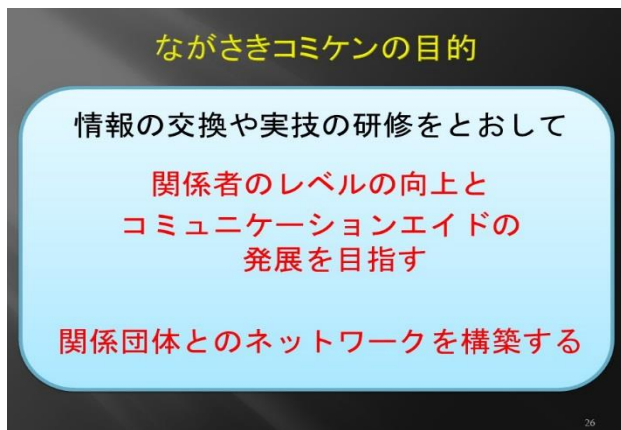
相談, 研修, 貸出事業を通して
作業療法士に相談すれば,
患者さんの困ったことが**解決できる**,
社会を目指しています。

5) ながさきコミュニケーションエイド研究会の紹介

こちらはご要望がありましたので紹介させていただきます。私が長崎県で主催しています「ながさきコミュニケーションエイド研究会」の紹介です。こちらはボランティアで 11 年ほど活動している団体です。目的としては、コミュニケーション支援に関わる関係者のレベル向上とコミュニケーションエイドの発展を促すこと、各団体のネットワークを構築するということ、コミュニケーションエイドの相談窓口となることです。

ながさきコミュニケーションエイド研究会 概要

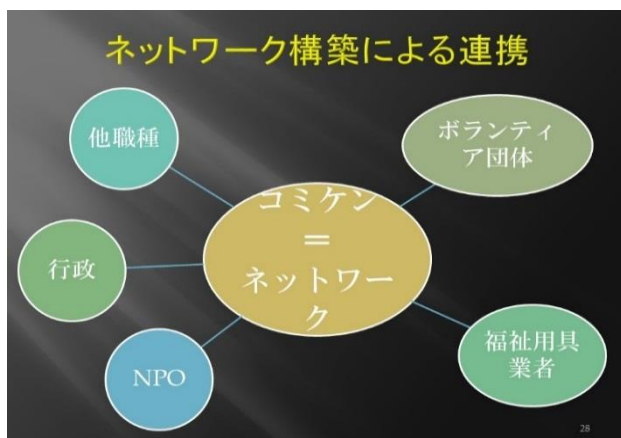
略称	・ながさきコミケン、コミケン
運営形式	・ボランティア団体
設立年度	・平成15年12月



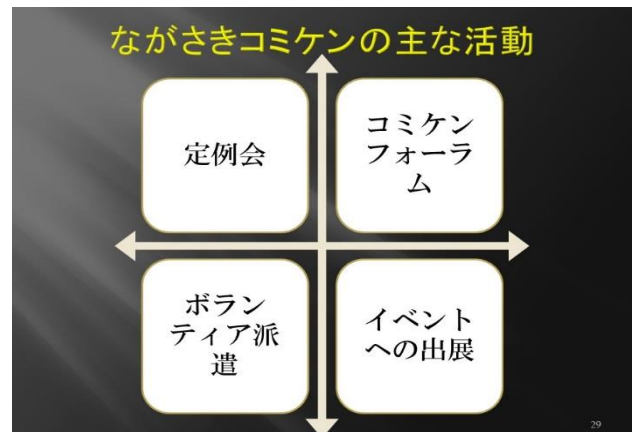
一番の特徴は、ボランティア団体であるためメンバー構成は多岐にわたることです。医療、福祉、教育、行政、工学、福祉用具の業者さん、当事者などです。メンバーは約 50 名程度で流動的です。メンバーとなるための条件は一切なく、県をまたいで佐賀県からの参加者もいます。実際に私自身も職場は佐賀県ですが、会長として関わらせて頂いています。



ネットワーク作りにつきましては、いろいろな NPO 団体や業者さんとの横の繋がりを作っているところです。



主な活動としては、スライドにお示しのとおり、定例会、ボランティア派遣、イベントへの出展と、コミケンフォーラムという学会形式のイベントを年に 1 度開催しております。



このスライドは定例会の様子になります。月に 1 回、夜 19 時～21 時 30 分頃までメンバーと集まり、事例相談への対応、意思伝達装置やスイッチの試用、新商品の紹介など、色々な企画を行っています。

定例会

目的

- ・情報交換，人材育成
- ・月 1 回 19：30～21：30

内容

- ・事例相談
- ・スイッチの作成や応用
- ・新商品の情報
- ・各種講演 ・事例発表

次にコミケンフォーラムについて御紹介します。これは年に 1 回行っている学会のようなもので、今年は 11 月 2 日に行いました。特別講演や機器体験コーナー・一般発表などを企画しました。



スライドはコミケンフォーラムの様子です。今年は、機器体験コーナーに 8 社程出展頂き、参加者の方には実際の機器を触っていただきました。機器体験コーナーは、国内で販売されている主だった意思伝達装置や入力スイッチを気軽に触れるように展示しています。また、コミュニケーションエイドに限らず、介護用ベッドや介護食品など難病患者さんにとって有用なものを幅広く展示しており、福祉機器展といった側面も持たせてあります。メインの企画は特別講演で、毎年コミュニケーション支援に関する著名な先生をお呼びして公演頂いています。さまざまな職種からの一般演題発表も行なっています。その他、患者さんが作られた絵・詩・俳句・手工芸などの作品も展示しています。年度によっては機器の使用方法に関するワークショップなども実施しています。

最後に 1 例だけ、コミケンで関わった症例の概

要をお話しさせていただきます。この方は ALS で四肢麻痺と診断されていた方です。一時期は足でパソコンを操作されていましたが、足が動かしくなくなって誤操作が増えてきたと相談がありました。本人さんと共に、足以外で入力スイッチが押せる場所を探してみました。すると本人様より右手薬指が僅かながら力が入る気がすると言われましたので、同部位の詳細な評価を実施しました。この方は普通、背臥位で手を置いている状態では全然手が動かなかったのですが、手関節を背屈位にしますと、若干薬指の指先が 5 ミリぐらい動くことが分かりましたので、スイッチを作ることになった方です。

この時は接点入力スイッチを作りましたが、作業療法士である私と、コミケンメンバーの工学技術を持った人とで協同作業を行ないました。具体的には、スイッチのメカニカルな部分は高専の先生にお願いしました。私は、患者さんの指が最も動きやすい角度に調節するための土台部分を作製しました。情報交換しながら、双方を組み合わせることでスイッチを作りました。最終的には本人・家族、在宅スタッフと相談して、細かなセッティングを行い、無事にスイッチに変更が可能になった事例です。この症例では、コミケンの特徴である多職種にて関わったことで、スイッチ変更がスムーズに進んだと考えております。

コミケンに興味を持っていただけましたら、ホームページや facebook ページもご確認ください。コミケンへのご相談などもホームページから可能ですので、お気軽にご連絡ください。

少しを超過しましたが、これで発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。

座長 上出: 植田先生、ありがとうございました。ネットワークの構築ということで、大変興味深いご発表をいただきましたけれども、フロアのほうからいかがでしょうか。今のご発表に関してご質問・コメント等。前半のほうで症例の情報を蓄積

してデータベースをという話だったのですが、それはどなたでも中身を見れるようになっているのですか。

植田：誰でも見せるとなると、プライバシーの保護と、患者さんの同意等も必要になってきますので、現状では日本作業療法士協会の会員に限定しています。相談を受けるためには、HP へのユーザー登録も必要になりますので、プライバシーは確保されています。今後、一般でも使われたいとの要望が増えてくれば、作業療法士以外への利用についても検討することになると思います。

座長 上出：フロアからいかがでしょうか。小森先生、お願いいたします。

小森代表：日本作業療法士協会の取り組みのところで機器のレンタルの話がありましたけれども、下世話な話で申し訳ないのですが、そのレンタル機器はどのように確保しているのでしょうか。実際のものをたくさん作業療法士協会が持つのか、そのたびにどこから借りるのか、余談的なところを教えてくださいませんか。

植田：ありがとうございます。機器の提供方法としては、作業療法協会でも機器を準備しています。足りない分につきましては、パシフィックサプライさんの「パッとレンタル」制度を使いまして、OT 協会がレンタルして借り上げたものをお送りする形をとっております。その他にも、メーカーさんとも交渉中でして、今後は貸し出し機器の種類も増やしていくよていです。

小森代表：ありがとうございます。

座長 上出：ありがとうございました。植田先生、ありがとうございました。あらためまして演者の3先生方に御礼を申し上げたいと思います。